チケット

●E-mail｜bodyartslab@gmail.com（チケット予約専用アドレス）
●Web予約フォーム｜http://bodyartslabo.com/wwfes2013/festival/form

ご予約は、上記E-mail、または、Web予約フォームよりお申込みください。E-mailの場合、｜1. プログラム名（フリーパスの場合は、イベント／クラスのいずれか）｜2. 日時｜3. 人数｜4. 氏名｜5. 連絡先（電話番号）｜をご記入ください。

- 各プログラム当日券を発行予定ですが、事前のご予約をおすすめします（一部予約不要のプログラムを除く）。事務局からの返信をもって、ご予約の完了となります。
- 料金のお支払いは、イベント当日受付でのご清算となります。
- 原則として、お申込み後のキャンセルは受け付けておりません。やむをえない事情でキャンセルされる場合は、事前のご連絡をお願いします。

フリーパス

- イベント・フリーパス……11,000円
［performance, roundtable, lecture & performance］
※関連企画｜マルテン・シュパンベルグ《踊る講義》を除く。

- クラス・フリーパス……24,000円
［class, workshop］
※マルテン・シュパンベルグ「共同新作公演」クリエイション、クリスティン・ボナンセア・サウリュト「即興ワークショップ」を除く。

お問い合わせ

ボディ・アーツ・ラボラトリー
bal@bodyartslabo.com
090-4069-7719
http://bodyartslabo.com

予告｜WWFes 2014

WWFes 2014は4名のキュレーター制により実施いたします。
キュレーター：
生西康典、大久保裕子
大倉摩矢子、田村友一郎

2013年10月7日［月］－27日［日］
森下スタジオ B｜C
企画／主催：ボディ・アーツ・ラボラトリー
助成：公益財団法人セゾン文化財団、芸術文化振興基金

- Festival
［公演・イベント］
- Educaion
［クラス・ワークショップ］

whenever wherever festival 2013

body arts laboratory

Festival

アダチマミ
有賀眞澄
生西康典
石黒節子
伊佐千明
石和田尚子
伊藤知奈美
印牧雅子
大久保裕子［予定］
大倉摩矢子
大崎清夏
小川水素
神村恵
川田夏実
河村美雪
木野彩子
アキオキムラ
京極朋彦
古関すまこ
齋田美子
櫻井拓斗
柴一平
島田桃子
JOU
新宅一平
杉田丈作
鈴木一琥
砂川佳代子
正朔
瀬藤康嗣
前後
外山明
高嶋晋一
武元賀寿子
田中いづみ
田村智浩
田村友一郎
栩秋太洋
中保佐和子
西村未奈
西山友貴
根岸由季
福留麻里
藤田善宏
文月悠光
細馬宏通
眞島竜男
松島誠
松本雄介
研生英午
三石祐子
三東瑠璃
衣倆
宮河愛一郎
武藤大祐
武藤容子
矢嶋久美子
山井絵里奈
山崎阿弥
山崎広太
若林里枝

マルテン・シュパンベルグ
アースラ・イーグリー
クリスティン・ボナンセア

Education

齋田美子
JOU
新宅一平
鈴木竜
藤井泉
宮河愛一郎

マルテン・シュパンベルグ
クリスティン・ボナンセア

photo: Hideto Maezawa

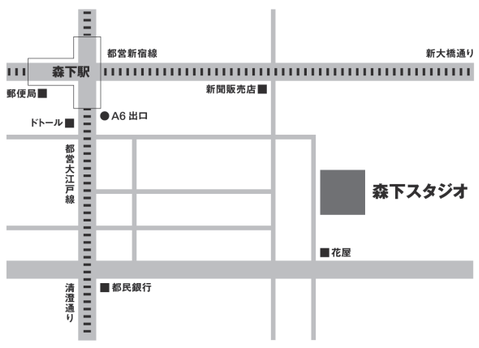
会場

森下スタジオ｜B｜C｜東京都江東区森下3-5-6
- 地下鉄都営新宿線・都営大江戸線「森下駅」A6出口より徒歩5分

［関連企画 会場］
東京大学駒場キャンパス｜21KOMCEE 101｜東京都目黒区駒場3-8-1
- 京王井の頭線「駒場東大前駅」下車すぐ

——

GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE｜東京都新宿区四谷1-5
近畿大学国際人文科学研究所東京コミュニティカレッジ 四谷アート・ステュディウム1F
- 「四ッ谷駅」JR中央線四ッ谷口、東京メトロ南北線2番出口・丸の内線赤坂口より徒歩3分



即興の再生 rebirth of improvisation

アーティスト主導のボディ・アーツ・ラボラトリー（BAL）がオーガナイズする実験的ダンス・フェスティバル、第5回WWFes（ウェン・ウェア・フェス）開催
テーマは「即興の再生」——

3週間で、約20の公演・イベントと、7つのダンスクラス・ワークショップなどを通して、「即興」を多角的に考察するプログラムを展開

http://bodyartslabo.com/wwfes2013

芸術文化振興基金助成事業

whenever wherever festival 2013

5年目をむかえ、拡散と凝縮を繰り返しながら、確実にプログラムを掘り下げ深化し続けるWhenever Wherever Festival（WWFes ウェン・ウェア・フェス）。今年から初めてテーマを設けて挑みます。

即興の再生

一期一会ということも、即興そのもの。日々の季節の移り変わり、潮騒を一つとっても、全てが即興といえます。即興性のないものは想像力に欠け、即興は関係を攪拌することができ、関係ないもの同士を結びつけることができる。ダンスにおいて即興は、多様な方向性を導き出す、もっとも重要なエッセンスの一つです。一方で、予見できないことを呼び込む即興は、同時に、偶然を必然として扱う方法・術であるといえます。技術（当然、振付）には再起（反復）性があるとすれば、一見矛盾する「即興の再生（replay＝再現）」という問いをたててみることもできないか？ 反復のなかに予兆を、予兆のなかに道理を読み込むこと。そのとき、即興は新たに定義し直されるでしょう。WWFes 2013では、即興をテーマに、その創造性を再考する。

振付の拡張——マルテン・シュパンベルグ招聘
そして、マルテン・シュパンベルグを招聘します。近年、身体や振付を多角的視点から捉え直す流れが展開し、歴史や文化的価値、身体哲学の再考をも包摂し、振付の拡張（踊りを創ることだけを振付とするのではなく、より広義に捉える試み）という概念を生み出していきました。彼はまさに、その火付け役の一人であり、ダンスの領域ではもちろんのこと、大学教育機関、美術館、ジャーナリズムの現場で、常にその発言が注目され、影響を与える人物です。ジャーナリスト出身ということもあり、批評性を伴った彼の見解は、コンテンポラリーダンスの価値と意義を大きく動かしました。WWFes 2013では、レクチャー、ラウンドテーブル、ソロ公演、そして日本のパフォーマーたちとの共同創作公演を行ないます。さらに、アースラ・イーグリー、クリスティン・ボナンセアを招聘し、トークや公演、ワークショップを開催します。

Staff
プログラム・ディレクター：山崎広太
プログラム・コーディネーター：佐藤美紀、印牧雅子
インターナショナルプログラム・コーディネーター：西村未奈、生島翔
インターナショナルプログラム・アシスタント：三石祐子
インターン：川田夏実、齊藤コン
協力：福島麻梨奈、田坂博子
Webデザイン：中村泰之｜エディター／印刷物デザイン：印牧雅子

Body Arts Laboratory

ボディ・アーツ・ラボラトリーは、アーティストが主導するダンス・オーガニゼーションの提案として2008年に創設されました。ダンスフェスティバルWWFesを毎年開催するほか、リサーチ活動として、批評／インタビュー／海外レポートを主にWeb上で発信しています。

——

リサーチ（一部）：
［インタビュー］笹本晃、ヨシコ・チュウマ、桂勘、長谷川六、合田成男、平原慎太郎、佐多達枝、坂田有妃子・寺田未来、室伏鴻、大橋可也、金森穣、尹明希（ユン・ミョンフィ）、竹之下亮、山崎広太
［出版物］記録集『セルフ・コーチング・ワークショップ 2010』

Whenever Wherever Festival

フェスティバルそれ自体が、創作のプロセスでアーティスト同士が結ぶネットワークとして成り立つこと。それがWWFesのコンセプトです。舞台表現に限定されない身体芸術をめぐる環境にはたらきかけ、研究者を含む多数の実践者との対話・協働の場を開き、その深化を目ざして、2009年より東京で毎年開催。創作プロセスを重視したプログラムや、アーティストがキュレーターとして企画に携わる形態を特徴とします。WWFesは、アーティスト相互の実験精神を交換することで、世代や分野を超えた、新たなコミュニティの創造を試行する場として構想されています。

>>>インターン随時募集中。bal@bodyartslabo.comまでお問い合わせください。

特別招聘アーティスト｜profile｜

マルテン・シュパンベルグ
Mårten Spångberg

スウェーデン、ストックホルム在住の振付家
実験的な試みや多様な形式・表現方法を取り入れた創作プロセスにより、振付という領域の拡張に取り組んでいる。1994年よりパフォーマーとして活動を始め、1999年よりソロからグループ作品、ウィリアム・フォーサイス／フランクフルトバレエ団などへの振付を含む作品発表を国内外で精力的に行なう。2011年にはグザヴィエ・ル・ロワとの共同作品をベネチアビエンナーレで公演、また、建築家トール・リンドストランドとのプロジェクトInternational Festivalなどを展開している。
ストックホルム・バナシアフェスティバル、Body Currency／ウィーンフェスティバル、リスボン グルベンキアン財団CAPITALS、フランクフルト・インターナショナル・サマー・アカデミーなど国際フェスティバルや機関のディレクターを務める。2006年には、ネットワーク・オーガニゼーションINPEXを立ち上げ、出版プロジェクト“The Swedish Dance History”を監修。ライターとして本の出版や、ストックホルムの雑誌『Aftonbladet』『Dagens Nyheter』にダンス批評家として寄稿（1990－97）し、2011年に初の著書『Spangbergianism』を出版。
人材育成にも貢献しており、過去にはヨーロッパにおける重要なダンス教育機関、P.A.R.T.S（ブリュッセル、ベルギー）、Ex.e.r.ce（モンテペリエ、フランス）、インバルスタンツ（ウィーン、オーストリア）、ストックホルム演劇大学で、ダンス理論および実技の講師を勤める。2008年、ストックホルムダンス大学振付科のMAプログラム（修士課程）ディレクターに就任。

——

［プログラム］
- 10.12, 14｜関連企画
《踊る講義 The Dancing Seminar》
- 10.19｜ラウンドテーブル｜振付の肖像
- 10.20｜ソロ公演
《Powered by Emotion》
- 10.27｜日本人アーティストとの新作公演

アースラ・イーグリー
Ursula Eagly

アメリカ、ニューヨークを拠点に活動する振付家、ダンサー
NYでは、ブルックリン美術館、ニュー・ミュージアム・オブ・コンテンポラリーアート、ダンスニューアムステルダム（DNA）、The Chocolate Factory、Dance Theater Workshop、Danspace Project、Mount Tremper Arts、Movement Research at Judson、92nd Street Y Harkness Dance Center、The Old American Can Factory、P.S. 122にて作品を発表。他、アルバニア、デンマーク、イタリア、マケドニア、マニプールなどの都市でも公演を行う。プロジェクトは、国際交流基金、USArtists 国際プログラム（Mid Atlantic Arts Foundation）、Suitcase Fund（Dance Theater Workshop）、Queens Council on the Artから助成を受ける。また、ダンスニューアムステルダム（DNA）、Kaatsbaan International Dance Center、Topaz Artsのレジデンス・アーティストに選出された。
ダンサーとしての主な活動は、Rebecca Brooks、Rebecca Davis、Daria Fain、Kathy Westwater、Christopher Williamの作品に参加。2006－2011年、チュウマヨシコの「A Page Our of Order」シリーズのメインキャストを務め、そのプロジェクトを通して、作曲家、瀬藤康嗣と出会う。また、出版物の編集者、パネルディスカッションの司会、オーガニゼーションの役員・アドバイザー、教師としてなどNYの前衛ダンスシーンに様々なかたちで貢献。『ムーブメントリサーチ・ジャーナル』の編集長を3年間務める。

——

［プログラム］
- 10.18, 19｜公演
《Self Made Man Man Made Land》
- 10.19｜ラウンドテーブル｜振付の肖像

クリスティン・ボナンセア・サウリュト
Christine Bonansea-Saulut

フランス生まれの振付家／ダンサー
マルチメディアを取り入れた作品を主に手掛ける。芸術学校での10年以上にわたるバレエ、モダンダンストレーニングの後、ソルボンヌ大学（パリ）で、文学を専攻しながら、ラ・ロシェルの国立ダンス学校にて、モダンダンスの学位を取得（金賞で卒業）。その後、フランス国立振付ダンスセンターのプロフェッショナルコースに選ばれ、振付のプロフェッショナルトレーニングを修了。
この10年では、作曲家、美術家、映像作家など、他分野のアーティストとの共同制作を通して、身体や動きのテクニックとともにビジュアル・アートの可能性を探求すると同時に、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカなど様々な国の異なる環境や場所において、どのような形でライブ・パフォーマンスを行うことができるのか試行してきている。
また、モダンダンス、即興テクニック、コンタクト・インプロビゼーションの教師として、Dance New Amsterdam（ニューヨーク）、コーネル大学、Kunst-Stoffアーツ、Lycee Francais（以上、サンフランシスコ）、Ponderosa（ドイツ）、アフリカのダカールなど、世界各地でクラスを教える。ここ4年で、いくつかのレジデンス・アーティストを経て、一連のダンス作品とインスタレーション制作に取り組み、フェスティバルやレジデンス・プログラム主催により、作品を国内外で発表。アメリカ、サンフランシスコのTheater Bay Area、Zellerbach Family Foundationまた、フランス大使館からの助成を受けている。
photo: Eddie Grant

——

［プログラム］
- 10.26｜即興ワークショップ
- 10.26｜ソロ公演《FLOATERS#1》

※フェスティバル内のプログラムの内容は、予告なく変更される場合があります。ご了承ください。